

# かぐらおが

第103号

平成12年12月20日

編集 旭川医科大学  
 厚生補導委員会  
 発行 旭川医科大学教務部学生課

(題字は初代学長 山田守英氏)



(写真撮影 教務部長 風間國康)

旭岳初冠雪

新入生を迎えて……………久保 良彦…………… 2	新歓合宿を終えて……………藤谷 好弘…………… 10
医学科の新入生を迎えて……………林 要喜知…………… 3	冬季休業期間における飲酒事故及び
看護学科の新入生を迎えて……………石川 一志…………… 4	交通事故・違反の防止について…………… 10
医学科新入生記念写真…………… 5	平成12年度運営組織…………… 10
平成12年度医学科入学者名簿…………… 5	平成12年度入学式…………… 11
看護学科新入生記念写真…………… 6	学内ニュース…………… 11
平成12年度看護学科入学者・第3年次編入学者名簿…………… 6	セクシュアル・ハラスメント(セクハラ)の防止について…………… 11
新入生を迎えて……………上村 恵一…………… 7	公開講座実施される…………… 11
新入生を迎えて……………遠藤 伸子…………… 7	平成12年度の主な行事…………… 12
外国人留学生一覧…………… 8	外国人留学生夏季オリエンテーション実施される…………… 12
平成12年度大学院入学者名簿…………… 8	第47回北海道地区大学体育大会成績表…………… 12
医学科第2年次後期編入学者記念写真…………… 9	東日本医科学生総合体育大会成績表…………… 12
平成12年度医学科第2年次後期編入学者名簿…………… 9	教官の異動…………… 13
新入生研修実施される…………… 9	解剖体慰霊式…………… 13
研究室紹介……………伊藤 俊弘…………… 9	窓外……………中村 公英…………… 14



## 新入生を迎えて

学 長 久 保 良 彦

本日ここに集われた医学科第1学年95名、看護学科第1学年60名同じく看護学科第3学年編入者10名の皆さん、ご入学おめでとうございます。希望に燃え医学あるいは看護学の道に進まれる皆さんを私共本学教職員は双手を挙げて歓迎いたします。

同時に、今日までこのように立派に育てて来られた、ご父母の皆様のお喜びはいかばかりかとお察しいたし、そのご苦労に深く敬意を表すると共に、心からのお祝いを申し上げます。

また黒田元学長、清水前学長はじめご来賓の皆様のご臨席に厚く御礼申し上げます。

21世紀が目前に迫っておりますが、みなさんが担われる新しい世紀の医学・医療について二、三申し上げたいと思います。

先ず、すでに始まっております目を見張るばかりの情報通信技術の革新であります。世界が社会的に縮小すること、いいかえると人・もの・情報が国境を越えて活発に動くことを意味するいわゆるグローバリゼーションの進行は、インターネットというような新しい媒体を介して、瞬時に世界中どこにでもアクセス出来る技術の進歩によりもたらされていることはいまでもありません。その結果、これまで比較的閉鎖的で、しばしば独特な制度ややり方を採用してきた日本の社会が、世界的な交流や競争に組み込まれ、世界で通用する基準で判断されるということでもあります。

医学・医療においてこのことは、例えば各大学から研究者個人個人に至るまで、国内はもとより国際的な規模でその知的貢献度が比較され、問われることを意味します。

さらに、医療従事者ばかりでなく、患者を含めたすべての国民の間、あるいは国際間で情報へアクセスする隔たりが無くなってしまふことになりまふので、診療する側も受ける側も根拠となるデータベースにいつでもアクセスできることになりまふ。それは、医療行為の理由やそのレベルが公開の場で問われるということなのです。

つまり、情報通信技術はその発達で人がまとっている、いろいろな副飾物を剥ぎ取り裸にしかねない力を持つことになり、これからますます個人の能力が重要性を増す時代を創り出すといえます。

次の世紀は生命科学の時代といわれるほど、現在の生命科学の研究は生き生きと活動しており、とくに医学では遺伝子治療に大きな期待が寄せられております。このような遺伝子レベルの研究は、病気に対する理解を深め、新しい治療法の開発に役立つ一方、その病気を持つ患者

がいかに様々であるかということも、明らかにしてくれることになると思います。

医学は不確実性の科学といわれてきました。この不確実性は主として、患者すなわち人間の持つ多様性によるものと考えられますが、遺伝子レベルの研究は人間の持つこのような多様性、あるいは複雑性を少しずつ解きほぐし、医学の不確実性を改善してくれるという希望を抱かせるものです。

しかし、現実の診療では患者の個体差への対応は、なお医学知識や技術を基盤に先人や自分自身の経験の積み重ねによらざるをえず、一人一人の患者に応じた全人的な病気に対してでなく、知・情・意を具えた一人の人間として治療を行うことが必須となっているのです。これから医学・看護学を学ぶみなさんは基本となる知識・技術の学習はもちろんですが、同時に人間理解への努力、人間の精神的・身体的な多様性を是非学んでいただきたいと思います。

最後に、本学のカリキュラムについて触れたいと思います。

本学の医学科では昨年度、皆さんの一年先輩から、看護学科では今年度入学の皆さんから、新しいカリキュラムで医学および看護学を学んでいただく運びとなりました。

それは、近年の医学・医療の目覚ましい進歩・発展や、激しいばかりの医療技術の革新に伴う桁外の情報量の増大とそのスピードに対処するよう工夫されたカリキュラムであります。多くを教え学ばせるという従来の教授法に比べ、学生が主体的に自ら学ぶ、いいかえると自分で課題を見出し自分でそれを解決する力を身につけさせる方向が、より良い医学教育法であるとする近年の医学教育学の研究や実践に基づいております。

このようなカリキュラムは国内ではまだ一般的になっておらず、ほぼ20年先行している米国の大学でも、なお年々改良の手が加えられているという、決して完成した方式ではありません。むしろ、今後も社会の動きに対応し、気付かれた問題点に手を加え改良して行かなければならないものなのです。このカリキュラムの効果をより高めるためには、皆さんそれぞれが良い医師・看護職者になるという明確な自覚をもち、ひたむきに努力をすることが欠かせない要件となります。

新しい世紀の医療を担われる皆さんの本学における心と知識と技能の研鑽を期待し式辞といたします。

(平成12年4月7日 平成12年度入学式 学長式辞)



## 医学科の新入生を迎えて

医学科第1学年担当 林 要喜知

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。晴れ晴れしい気持ちで医学生としてスタートをきられたことと存じます。今後2年間、私は学年担当として皆さんと接する機会が多くなると思います。まずは、私の研究生活で得た経験の一部をご紹介します。皆さんへの御挨拶とさせていただきます。

もう10年以上も前になりますが、私は、ペンシルバニア大学医学部及びイリノイ大学生命科学部に於いて、Horwitz, A.F. 教授のもとで細胞生物学の分野で研究する機会を得ました。皆さんも御存知のように、私達の身体は何十兆個という細胞からできておりますが、その構成をみると、働きが似た細胞がまとまって集団（組織）を形成し、いくつかの組織が組み合わされることで、身体の様々な部分である器官ができています。これらの器官が正常な形態を保ったり、うまく機能するためには、最小単位である細胞が、隣接する細胞や細胞周囲のマトリクスと適切に接着することが不可欠です。

当時の私の研究テーマは、細胞接着に必要な分子の一種であるインテグリンという膜蛋白質がどのように働くのか、そのためには、その分子内のどの領域が必要なのかを調べることでした。毎日毎日、インテグリン遺伝子の塩基配列を変化させ、それら改変遺伝子を細胞に取り込ませる実験を行いました。実験前には、分子構造と細胞接着能の相関を予測して十分に議論したつもりでしたが、やってみるとなかなか期待した結果が得られませんでした。鬱々とした気分を実験する日が2年以上も続くと、さすがに、焦りや苛立ちを感じざるを得ませんでした。しかしながら、そんな時、なんとか細胞接着能を失った改変遺伝子を見つけることができ、大いに興奮しました。内心、「これで論文が書ける」という安堵感と共に、今度は早く実験をまとめたいという焦りがでてきました。ところが、指導教授は、「この結果がインテグリンの機能に重要な部分を壊した為におこったことなのか、あるいは、遺伝子のどの部位でも改変されるとみられる非特異的な影響なのかを決めることが、先決問題だ」と主張しました。そのためには、さらに、小さな遺伝子変異を多数作製し、どちら

の可能性が正しいかを調べなければならず、これは、まさしく、definitive experiment であり、短く見積もっても数カ月の期間が必要でした。

焦燥感で一杯だった私は、簡単に追加や補足ができる実験プランを幾つか携え、再度、教授の意見を求めました。しかし、彼は、やはり「時間がかかっても、最も大切な実験に全力をあげるべきであり、余分な仕事をするくらいなら、遊んでいた方が良い」と答えました。これは、「何か重要な発見があった時には、まっ先にそれが間違いない実験結果（再現性があること）であり、かつ、実験のartifactでないことを先ず確かめる。その上で、それがどのような事実を反映しているかを明解にするため、次に、最適な実験をおこなうべきだ」という科学者としての経験に裏打ちされた智慧でした。土台がしっかりと固まっていないうちに、傍証を積み重ねたり、結論が出ない曖昧な実験をすると、かえって間違った結論を導くことになりかねないからです。今考えると、私は、見栄や体裁からくる焦りのために安直な論文作成にこだわり、重要な視点を危うく見逃すところでした。

皆さんは、Castle of Cards という言葉を御存知でしょうか。砂上の楼閣と同じような意味で、トランプカードでどんな立派な城を築いたところで、土台がぐらついたり、風が吹いたりしたら、一瞬のうちにすべてが水泡に帰してしまうという例えです。しかも、危ういトランプの城を作るのにも、実は、多くの時間と労力、さらには、相当の資金を注ぎ込むことになり、損失は極めて甚大なものとなるでしょう。単純なことですが、この「土台作りの大切さ」は、実は、何ごとにもあてはまるのではないかと私は感じております。それゆえ、これから医学教育をうける皆さんにも大いに意識してほしい言葉であると考えます。将来の目標をしっかりと見据えながら、真摯な医学生として学業に励む、そのためには、先ず、科学する心を大きく育ててほしいと期待しております。同時に、人間的にも、しっかりとした大きな土台を築いてほしいと願っております。



## 看護学科の新生を迎えて

看護学科第1学年担当 石川 一志

新生の皆さん、入学おめでとうございます。心からお祝いを申し上げます。医学科や看護学科の由緒正しい先生方とは違い、私はどこかの馬の骨でありまして、学年担当とは烏滸の限りであります。できるだけ皆さんの良き理解者であるよう努めるつもりです。

当学科は、今春初めての卒業生を送り出したばかりの若い学科です。幸い第一回生全員が、看護婦（士）（以下「看護師」と呼びます）の国家試験に合格したことは、真に喜ばしいことです。皆さんは第5回生として「選ばれた」人達です。「選ばれた」という意味は、医療や保健衛生等の分野で多くの人々の健康と福祉に貢献する意志を有し、そのための知識と技術を習得する資質があると認められた、という事であるかと思えます。

皆さんは、あるいは時として大学の内外で医学生と比較されることがあるかも知れません。医学科の新生もまた国民の健康の維持増進に貢献することを前提に「選ばれた」のです。医師は社会的地位が高く、多くの人々に大いに尊敬されています。それは単に難しい医師国家試験を通ったからというだけでなく、医の倫理に則り、常に勉学を続け、研究を重ね、その成果を患者のために役立てようと心を砕いている事でこれほどの尊敬を集めているのです。そのうえ、医療に携わる者は、より高い倫理観を有することを社会から求められています。しかし、真の意味でそれを実践するのはなかなか難しいことなのかもしれません。

看護師もまた社会的にもっと高い評価を受けて然るべきかと思えます。私は、持病を有しており、医学・医療の恩恵を最大限に享受している身ですが、医療の中で看護師の果たす役割の大きさを実感しております。医療が急速に高度化し、さらには高齢化社会を迎えつつある現在、高度な知識と技術を有する看護職の重要性は一層増してきています。今後これまで以上に看護師の社会的評価が高まるか否かは、ひとえに各地に新設された看護系大学の教職員や卒業生・学生の努力次第であろうかと思われまふ。看護学科に入学された皆さんは、自

ら選んだ道に対する自覚と誇りを持って学生生活を送って頂きたいと思えます。医学生と役割は異なりますが、同じ医療の道を志し共に勉学する仲間です。将来は同じ職場で働くことになるかもしれませんが、お互いを尊重し、助け合ってほしいと思えます。

人間、しかも主に弱者を対象とする職業である看護師には、人間や社会の諸々の事象に関する幅広い知識と教養が求められます。立花 隆が「知的亡国論」（文芸春秋、'97.9）で既に鋭く指摘しているように、現在の日本の教育課程ではリベラル・アーツ（一般教養）を修得する機会が狭められ、「知」の水準が低下してきており、それが創造性にまで影響を及ぼしてきているようです。ここでこのことを詳しく述べる余裕はありませんが、皆さんは、看護職のスペシャリストになることはもちろんのこと、一生涯をかけて、広く深い教養を身につけたゼネラリストを目指してほしいと思えます。同時に、現在人類が到達した人間に関する「最良の考え方」に対する感受性も磨いてほしいと思えます。人命の尊厳を認識し、他人の人権を尊重することは、本来、この社会において自分の存在を保障することであるはずで

自分のことを棚に上げて柄にもない事を書きました。先日の宿泊研修で、皆さんがかなり個性的で、あふれるエネルギーの持ち主であることを知り、好ましくもまた頼もしくも感じました。個性を大切にしながら二度とない青春を謳歌し、充実した学生生活を送って頂きたいと思えます。最後に、「味のちもんめ」（安部善太作・倉田よしみ画、講談社、原典は？）に登場する「ぼんさん」の言葉を引用して、新生の皆さんへのエールと致します。

強いられて勉めるは勉強なり。学んで後に疑いあり。疑って問う、これ即ち学問なり。

若くして学べば壮にして為す。壮にして学べば老にして衰えず。





## 新入生を迎えて

医学科第6学年 上村 恵一



新入生のみなさん、入学おめでとうございます。今は、不安や緊張の毎日で大変だと思います。それは誰しも持っているものだし、今思い描いている自分の大学生活は大切なものだと思います。

入学したばかりの自分は6年間の大学生活をどうすごすのか考えていました。みなさんも解剖実習があって、細菌実習があって、ポリクリに行っなどといろんな医学部にしかない特徴的なカリキュラムを思い描いていると思います。しかし、今最も大切だと思うのが、人との触れ合いだと思います。実習班での協調性、クラブ活動での先輩との付き合い、同期の間での親睦などです。6年間で得る医学知識よりも遥かに大事なことは、人との触れ合いだと思うのです。今、社会が求めている医師像は豊富な知識と豊かな人間性を併せ持

っている医師です。豊富な知識は、みなさんの大きな好奇心が獲得しうるものでしょう。しかし、豊かな人間性は他から学べるものでしょうか。6年間の多くの人との触れ合いの中で獲得されていくべきものだろうと思います。そのために、多くの友人と語り合い、多くの先輩と語り、多くの先生方と語り合う中での人との触れ合いを通して、豊かな人間性を身につけてほしいと思います。

5年生になると病棟実習が始まります。必ず患者さんとコミュニケーションをとることになります。患者さんに安心してもらえる医師は、良好な患者—医師関係を構築できるものと思います。そういったコミュニケーション能力において最も良く反映されるのは日頃の多くの人との触れ合いです。

6年間では、試験もクラブもバイトも、どこに行っても人とのつながりがあります。自分から積極的に人と触れ合い、多くの人間関係をつくり、何でも相談できる友人を作ってください。自分が苦しい立場に立ったとき初めて、人とのつながりがどんなに大切かを痛感します。どうぞ充実した6年間を過ごして下さい。

## 新入生を迎えて

看護学科第4学年 遠藤 伸子



新入生の皆さん、御入学おめでとうございます。受験生という立場からようやく解放され、これから始まる新しい生活に期待や不安でいっぱいになっていることと思います。

私が2期生としてこの旭川医大の看護学科に入学したのは、今からもう3年前のことになります。「看護婦になりたい」という漠然とした思いから選んだこの道ですが、1年が過ぎ2年が過ぎて遠かった夢が手の届く現実になるにつれ、自分の将来に迷いや不安を覚えることもありました。試験や実習の辛さに何もかも投げ出してしまいたくなることもありました。それでも逃げずに乗り越えてこられたのは、同じ悩みを分かちあい励ましあえる仲間がいたからだだと思います。これからの4年間・6年間苦楽を共にする仲間との出会いを是非

大切にして下さい。

また、有意義な学生生活を送るためには勉強ももちろんですが、部活動やアルバイトなどを通して自分の世界を広げることも大切だと思います。人と接する職業に就く人間にとって無駄な知識・経験はありません。何事にも積極的に取り組んでみて下さい。きっと何か得られるものがあるはずです。

そして、短い青春時代ですから思いきり遊び楽しんで下さい。休暇を利用して旅行に行くのもよし、授業の合い間にドライブに行くのもよし、時には徹夜で飲んで酔いが醒めないまま授業をうけることがあってもいいと思います。無意味に思えるような時間のなかにも学ぶべきことはたくさんあります。授業・試験・実習と、勉強は決してラクではありませんが、自分次第で楽しい学生生活を送ることは十分可能です。大学生として、医学生・看護学生として、充実した日々を過ごして下さい。

最後に、看護学科は今年開設5年目を迎えました。3月に卒業された1期生が試行錯誤しながら築きあげた歴史を土台に、新しい伝統を創るべく共に努力していきましょう。

## 外国人留学生一覧

平成12年12月1日現在の本学在籍の外国人留学生は、大学院学生7名、研究生3名、学部学生5

名の合計15名です。

15名の方々は一覧のとおりですが、挨拶を交わすなど簡単なことから交流を深めてゆきたいものです。

(学生課)

氏名	通称	性別	国籍	種別	期間	所属
SHARIFA, DINARA シャリファ、ディナラ	ディナラ	女	バングラデシュ	大学院 第4学年	1997.4.1～ 2001.3.31	産婦人科学講座
馬 紅 マーホン	マ一	女	中国	大学院 第4学年	1997.4.1～ 2001.3.31	薬理学講座
肖 春 陽 シャオ チュンヤン	シヨウ	男	中国	大学院 第4学年	1997.4.1～ 2001.3.31	薬理学講座
潘 伯 臣 パン ボーチェン	パン	男	中国	大学院 第2学年	1999.4.1～ 2003.3.31	産婦人科学講座
高 弼 虎 ガオ ビフー	ガオ	男	中国	大学院 第2学年	1999.4.1～ 2003.3.31	生理学第一講座
辛 风 シン フツン	シン	男	中国	大学院 第2学年	1999.4.1～ 2003.3.31	整形外科科学講座
BALJINNYAM, ERDENECHIMEG バルジンニヤム、エルデネチメグ	エルデネ	女	モンゴル	大学院 第1学年	2000.4.1～ 2004.3.31	内科学第一講座
趙 亚 薇 チョウ ヤーウィ	チョウ	女	中国	研 究 生	1999.10.1～ 2001.3.31	産婦人科学講座
王 晓 芳 ワン シャオファン	ワン	女	中国	研 究 生	2000.1.1～ 2001.3.31	産婦人科学講座
王 国 朋 ワン グオリ	ワン	女	中国	研 究 生	2000.10.1～ 2002.3.31	生化学第二講座
AZURAWATI MD. ALWI アズラワティ モハマッド アルウィ	アズラワティ	女	マレーシア	医学科 第6学年	1994.4.1～ 2001.3.31	
SYAMSUL BIN MUHAMMED シャムスル ムハマド	シャムスル	男	マレーシア	医学科 第6学年	1994.4.1～ 2001.3.31	
AZAHARULDIN BIN ABDULLAH アザハルディン アブドゥーラ	アザハル	男	マレーシア	医学科 第4学年	1997.4.1～ 2003.3.31	
HAIRUL ANUAR BIN AMIR ハイルル アヌアル アミル	ハイルル	男	マレーシア	医学科 第3学年	1998.4.1～ 2004.3.31	
KHALILATI BARIZAH ハリラティー バリザー	エラー	女	マレーシア	医学科 第2学年	1999.4.1～ 2005.3.31	

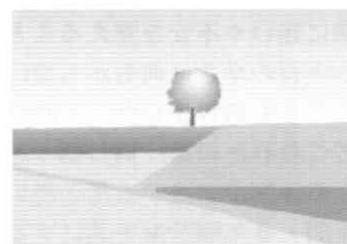
## 平成12年度 大学院入学者名簿

平成12年度博士課程入学者名簿

氏名	専攻	指導教官
上 村 淳 一	細胞・器官系	石 川 睦 男
伊 藤 貴 博	細胞・器官系	高 後 裕 男
吉 田 将 亜	細胞・器官系	北 進 一
柏 手 由里乃	細胞・器官系	葛 西 真 一
高 山 浩 二	生体情報調節系	岩 崎 寛
石 関 哉 生	生体情報調節系	牧 野 勲
山 田 武 宏	生体情報調節系	牛 首 文 隆
栗 山 周 子	生体情報調節系	吉 田 晃 敏
斉 藤 修	生体情報調節系	吉 田 晃 敏
甲 斐 健 一	生体情報調節系	吉 田 晃 敏
井 澤 和 眞	生体情報調節系	菊 池 健次郎
本 望 聡	生体情報調節系	葛 西 真 一
斉 藤 亜 呼	生体情報調節系	牧 野 勲
山 田 理 大	生体情報調節系	葛 西 真 一
バルジンニヤム、エルデネチメグ	生体情報調節系	菊 池 健次郎
石 田 芳 也	生体防御機構系	原 渕 保 明
槌 谷 宏 平	生体防御機構系	松 野 丈 夫
野 澤 はやぶさ	生体防御機構系	原 渕 保 明
片 山 昭 公	生体防御機構系	原 渕 保 明
稲 村 純 季	生体防御機構系	高 後 裕
小 泉 一 也	生体防御機構系	高 後 裕

平成12年度修士課程入学者名簿

氏名	専門分野
児 玉 真利子	看護管理学
澤 田 貴美子	看護管理学
橋 本 笑美子	看護管理学
山 口 佳 子	看護管理学
高 室 典 子	母子看護学
中 端 五 月	母子看護学
平 岡 康 子	母子看護学
石 橋 秀 子	地域・環境看護学
川 村 ひとみ	地域・環境看護学
谷 口 友 理	地域・環境看護学
松 田 哲 子	地域・環境看護学
松 本 泉	地域・環境看護学





## 平成12年度医学科第2年次後期編入学者名簿

氏名
打田 葉子
奥村 貴史
奈田 利恵
鈴木 達也
中島 範子



## 新入生研修実施される

平成12年度新入生研修が、医学科は4月17日(月)・18日(火)の両日、看護学科は4月20日(木)～21(金)の1泊2日で実施されました。

医学科は、新入生を11～12名のグループに分け、1グループに先輩を含む3名の教官が指導にあたり、自己紹介について学生生活全般にわたり助言並びに懇談が行われました。

また、看護学科は、2日間にわたり合宿研修が美瑛町大雪山白金観光ホテルにおいて実施され、今後の学習への取り組み方、人との関わりについて指導・助言などがあり、また、交流会では、新入生間・新入生と教官間の親睦を深めました。(学生課)



医学科



看護学科



看護学科

## 研究室紹介

### 衛生学講座助手 伊藤 俊弘

衛生学講座は予防医学を専門領域とし、我々人間が病気にならずに健康に生きる術を研究し教育・啓蒙することを使命としています。授業で行う衛生学の系統講義と実習の他に、国家試験の必須科目であるために卒業間近に特別講義も組まれる予定です。最近、医師の間で話題となっている産業医の養成を行うのも衛生学講座の役割です。2000年1月1日より吉田貴彦教授が赴任して以来、松井利仁講師、伊藤俊弘助手および澤山陽子事務官とともに新しい教室作りを行って参りましたが、4月1日には中木良彦先生が新たに助手として加わり、講座は現在非常に活気が溢れております。衛生学の研究テーマは、主として環境に存在する化学物質、物理エネルギー、生物学的要因、社会的要因などによって引き起こされる健康

障害の解明で、それらの発生を予防する方策について取り組んでいます。また、社会医学としての役割も重要なことから、研究室の実験に加えて国内外でのフィールド調査や疫学的研究など活動の場は広く、社会のニーズに合わせた研究を行って成果を社会に還元できるよう心掛けています。私たちの教室では、砒素などの金属や環境ホルモンなどの環境汚染物質による免疫機構や中枢神経系への影響、騒音など物理・社会的要因などによる生体影響について研究しています。



## 新歓合宿を終えて

新入生歓迎実行委員会委員長

藤谷好弘

4月8・9日。あいにくの雨にも関わらず、9割以上の新入生が新歓合宿に参加してくれました。緊張気味の人、リラックスしてる人、すでに友達とおしゃべりを楽しんでいる人など、様々な顔が見られました。

まずは校舎案内からスタート。高校とは違う、大学の広さにとまどう人もちらほら。そしてクラブ紹介。クラブ側も勧誘に必死で、様々なパフォーマンスが繰り広げられました。一方で一年生同士も友達を増やし、テンションも高くなっていきます。

いよいよホテルへ移動。新歓委員とのゲーム、チューターとの談話、クラブ勧誘など新入生も休む暇なくイベントが続きます。そして最後には新歓委員と飲んで、語って、カラオケして盛り上がりました。こうして何事もなく無事に終わることができました。新入生にとって良い思い出、良いきっかけになったのではないかと思います。参加してくれた新入生、どうもありがとうございます。これからもよろしく。

## 冬季休業期間における飲酒事故及び交通事故・違反の防止について

特に、冬季休業期間は飲酒する機会も増えることと思いますが、飲酒による事故は、イッキ飲みなどによる急性アルコール中毒、酔った上での傷害事件や凍死事故、酒気帯び運転事故など数多く新聞紙上等で報道されております。

については、クラブ活動の仲間や友人同士での集まりなどにおいて、飲酒による事故・事件が決して起きることのないよう節度ある行動をとられることを強く希望します。

なお、交通事故・違反を起こした場合は、「学生の交通事故・違反の取扱いに関する申合せ」（平成11年9月8日教授会決定）に基づき、厳正なる処分をすることになりますので、車を運転する場合は、交通ルールを遵守し、常に冷静なる安全運転を心掛けるよう願います。

(学生課)

## 平成12年度運営組織

本学には、医学教育についての調査研究、教育課程の編成、修学指導、授業及び試験の実施、単位の修得及び履修、学籍関係等について審議する機関としての教務委員会と学生の厚生補導に関する調査研究、学生の課外活動、福利厚生等について審議する機関として厚生補導委員会があります。

両委員会の平成12年度の委員は次のとおりです。

### (教務委員会)

委員長 片桐 一 (副 学 長)  
副委員長 黒島 晨汎 (図 書 館 長)  
委 員 林 要喜知 (医学科第1学年担当)  
上口勇次郎 (医学科第2学年担当)  
伊藤 亮 (医学科第3学年担当)  
坂本 尚志 (医学科第4学年担当)  
松野 丈夫 (医学科第5学年担当)  
高後 裕 (医学科第6学年担当)  
石川 一志 (看護学科第1学年担当)  
岡田 洋子 (看護学科第2学年担当)  
北村久美子 (看護学科第3学年担当)  
阿部 典子 (看護学科第4学年担当)  
近藤 均 鈴木 裕  
葛西 眞一 望月 吉勝

### (厚生補導委員会)

委員長 片桐 一 (副学長)  
副委員長 岡田 雅勝  
委 員 中村 正雄 高橋 雅治  
原 明義 橋本 眞明  
吉田 貴彦 吉田 晃敏  
松野 丈夫 原 保明  
良村 貞子 前田 隆  
新開 淑子 武井 明  
(学生課)

## 平成12年度入学式

医学科・看護学科の入学式が、4月7日(金)10時から本学体育館において挙行されました。

式では、新入生155名(医学科95名・看護学科60名)・看護学科第3年次編入生10名を代表して医学科 浅野目晃さんが宣誓を行い、医学生・看護学生としての自覚を新たに大学生活の第一歩を踏み出しました。

(学生課)

## 学内ニュース

### 平成11年度学士学位記授与式

平成11年度学士学位記授与式が、3月24日(水)10時30分から本学体育館において挙行されました。

式では、本学室内合奏団が奏でる調べのなか、学長から卒業生164名(医学科103名・看護学科61名)一人ひとりに学士学位記が手渡されました。

ついで学長から卒業にあたり式辞が述べられました。

(学生課)

## セクシュアル・ハラスメント (セクハラ)の防止について

セクシャル・ハラスメント(セクハラ)は、社会的に大きな問題となっております。

セクハラは、何よりも相互の理解と信頼を傷つけ、人権の尊重を侵害する行為です。自らの行動や言動がセクハラと結びついていることを気づかず、一方では相手が人知れず悩むことになります。

大学は、安全な勉学・教育活動の場であり、何人にも乱されることのない教育・研究の場でもあります。

全教職員・全学生が一貫となって『セクハラのないキャンパス・ライフ』にしましょう。もし、セクハラを受けたり、見たりしたなら下記の相談員に気軽に相談ください。

### 【セクハラ相談員】

上口勇次郎(生物学教授) ☎68-2729・内線2729  
坂本 尚志(生理学第二) ☎68-2330・内線2330  
高後 裕(内科学第三) ☎68-2462・内線2460  
良村 貞子(基礎看護学) ☎68-2914・内線2914  
岡田 洋子(臨床看護学) ☎68-2931・内線2931  
北村久美子(地域保健看護学) ☎68-2953・内線2953  
武井 明(保健管理センター講師) ☎68-2767・内線2767  
藤尾美登世(保健管理センター保健婦) ☎68-2768・内線2768

(学生課)

## 公開講座実施される

平成12年度本学公開講座が『がん治療の最前線』をテーマに10月23日(月)から11月8日(水)までの実7日間、市内ホテルにおいて開催されました。

本講座では、内科的治療と外科的治療の両面からスポットを当て、最新の情報をスライドやビデオ、パソコンを使用しながら受講者に分かりやすく解説し、個々の健康管理に役立てて欲しいと願う熱気が伝わってきました。

今回のプランナーとして、種々ご協力をいただきました葛西教授をはじめ関係教職員に心から感謝申し上げます。(学生課)

**第1回** 10月23日(月) 18:00~19:30

### 悪性新生物ってなに？

医学部 外科学第二講座  
教授 葛西 眞一

### がんはどうしてできるの？

医学部 病理学第一講座  
教授 小川 勝洋

**第2回** 10月25日(水) 18:00~19:30

### 血液のがん

医学部附属病院小児科  
講師 室野 晃一

### 前立腺のがん

医学部附属病院泌尿器科  
講師 橋本 博

**第3回** 10月30日(月) 18:00~19:30

### 肺のがん

医学部附属病院第一内科  
講師 大崎 能伸  
医学部附属病院第一外科  
講師 八柳 英治

**第4回** 11月1日(水) 18:00~19:30

### 肝・胆・膵のがん

医学部 内科学第二講座  
助教授 中村 公英  
医学部附属病院第二外科  
助手 紀野 修一

**第5回** 11月2日(木) 18:00~19:30

### 食道と胃のがん

町立中標津病院  
副院長 横田 欽一  
医学部 外科学第二講座  
助教授 棟方 隆

**第6回** 11月6日(月) 18:00~19:30

### 大腸と直腸のがん

医学部 内科学第三講座  
教授 高後 裕  
医学部附属病院第二外科  
講師 柿坂 明俊

**第7回** 11月8日(水) 18:00~19:30

### 乳腺のがん

医学部附属病院第一外科  
講師 山崎 弘資

### 子宮・卵巣のがん

医学部附属病院産科婦人科  
講師 林 博章

## 平成12年度の主な行事

4月7日	入学式
4月17日・18日	医学科新入生研修
4月20日～21日	看護学科新入生研修
6月16日～18日	医大祭
9月6日	体育大会
9月20日	解剖体慰霊式
11月5日	本学記念日
3月23日	学位記授与式(学生課)



## 外国人留学生夏季オリエンテーション実施される

8月25日(金)外国人留学生夏季オリエンテーション及び交流会が実施され、在籍留学生14人中11人とその家族6人及び教職員が参加しました。

大雪窯では全員が体験陶芸教室に参加して花瓶や灰皿、茶碗など思いおもいの作品に挑戦し、つま揚子で描いた自分の画にご満悦の留学生が大勢おりました。

紙遊館では、開拓期のくらし、発展期のくらし、さらに今日のくらしと時系列に沿った展示等に皆興味深く見入っていました。

(学生課)

## 第47回 北海道地区大学体育大会 成績表

種目	順位	優勝	準優勝	旭川医大
陸上競技	男	学院大	専修短大	
	女	旭教大	北大	ベスト8
準硬式野球		函教大	札医大	
ソフトテニス	男	道工大	学院大	
	女	名寄短大	樽商大	
バスケットボール	男	学院大	北海学園	
	女	札教大	旭教大	
バレーボール	男	旭教大	旭川医大	準優勝
	女	旭教大	旭川大	
サッカー		道都大	学院大	
卓球		室工大	北海学園	
バドミントン	男	苫駒澤大	北海学園	
	女	苫駒澤大	岩教大	
剣道	男	函館大	道東海旭	
	女	函教大	苫駒澤大	
弓道	男	学院大	北大	
	女	樽商大	酪農学園	ベスト8
ハンドボール		道都大	函教大	
総合	男	学院大	道都大	第9位
	女	旭教大	北大	第11位

(個人) 陸上競技	男子800m	2位	佐々木祐介
	女子100m	優勝	石川千里
	女子200m	2位	石川千里
	女子800m	5位	竹原彩
	女子円盤投	6位	橋本さつき
	女子やり投	4位	西岡亜希子

## 第43回 東日本医科学学生総合体育大会 成績表

種目	順位	優勝	準優勝	旭川医大
陸上競技	男	慶応大	山形大	
	女	筑波大	東京女子医大	
準硬式野球		弘前大	新潟大	
テニス	男	千葉大	筑波大	
	女	群馬大	信州大	
ソフトテニス	男	新潟大	東北大	第4位
	女	北海道大	信州大	
卓球	男	山梨医大	秋田大	ベスト8
	女	秋田大	北里大	
バレーボール	男	旭川医大	北海道大	優勝
	女	群馬大	新潟大	
バドミントン	男	弘前大	東京大	
	女	新潟大	筑波大	第3位
サッカー		新潟大	東京医科	
バスケットボール	男	順天堂大	山形大	ベスト8
	女	福島県立医大	杏林大	
柔道		自治医大	新潟大	
剣道		北海道大	昭和大	
弓道		東北大	昭和大	
空手道	男	防衛医大	自治医大	
水泳	男	慶応大	聖マリアン医大	
	女	福島県立医大	慶応大	
ゴルフ	男	日本医大	慶応大	
	女	旭川医大	信州大	優勝
ハンドボール		自治医大	山梨医大	
ラグビー		弘前大・自治医大		
総合順位		新潟大	慶応大	第10位
女子部門順位		福島県立医大	群馬大	第8位

(個人) ゴルフ	女子個人	優勝	松尾彩 (1年)
	女子個人	4位	佐藤昇子 (4年)

## 教官の異動

停年退職	12.3.31	解剖学第二	教授	松嶋 少二
"	"	細菌学	"	東 匡伸
"	"	小児科学	"	奥野 晃正
辞職	"	外科学第一	助教授	稲葉 雅史
"	"	精神科神経科	講師	吉田 幸宏
昇任	12.4.1	外科学第一	"	八柳 英治
"	"	臨床看護学	"	伊藤 幸子
"	"	精神科神経科	"	布村 明彦
"	"	医療情報部	"	山上 浩志
転出	"	生化学第一	助教授	亀下 勇
"	"	手術部	"	中島 進
採用	12.4.16	臨床検査医学	教授	伊藤 喜久
昇任	12.5.1	手術部	助教授	平田 哲
"	12.5.16	生化学第一	"	加藤 剛志
"	12.6.1	第一外科	講師	山崎 弘資
辞職	12.6.30	眼科	"	門 正則
昇任	12.7.1	耳鼻咽喉科	"	小林 吉史
"	12.8.1	生化学第二	"	大保 貴嗣
"	12.9.1	病理学第一	"	柳沼 裕二
辞職	12.9.30	第三内科	"	横田 欽一
昇任	12.10.1	解剖学第二	教授	渡部 剛
"	"	第三内科	講師	奥村 利勝
辞職	12.10.31	内科学第一	助教授	羽根田 俊
昇任	12.11.1	微生物学	教授	若宮 伸隆
"	"	内科学第一	助教授	長谷部直幸
採用	"	外科学第一	"	稲葉 雅史
転出	"	"	講師	八柳 英治
昇任	12.11.16	小児科学	教授	藤枝 憲二
"	12.12.1	法医学	講師	清水 恵子
"	"	第一内科	"	川村祐一郎
配置換	12.12.16	内科学第三	"	斉藤 裕輔
昇任	"	第三内科	"	鳥本 悦宏

## 解剖体慰霊式

平成12年度解剖体慰霊式が9月20日(水)午後1時30分から本学体育館において執り行われました。

本年度の対象御遺体は、系統解剖33名、病理解剖46名、法医解剖104名で、慰霊式においては、諸霊の御霊に対しご冥福をお祈りするため黙とうが行われ、引き続き久保学長と学生代表(医学科第3学年松田知倫)から追悼の辞が述べられました。

その後、御遺族と御来賓の方々及び教職員、学生の代表から献花が捧げられ、亡くなられた方々の御遺徳を偲びご冥福を祈念しました。

(庶務課)





## 窓 外

中 村 公 英

### 環境破壊と種の絶滅

最近、環境破壊に関する新聞、雑誌の記事やテレビ番組を目にする機会が多くなっている。南米や東南アジアの熱帯雨林が木材の輸出や焼き畑農業などのため、年平均1291万haずつ消失し、そのため大気中の二酸化炭素処理能力が低下し、ひいては地球温暖化や酸性雨が問題となっている。しかし、問題はそれだけではなく熱帯林の消失にとともに、そこに生息する動植物の種が年に0.16～0.32%ずつ減少していると予測され、これは熱帯林から毎日少なくとも一種以上以上の動植物が絶滅していることになり、地球は恐竜が大量絶滅した6500万年前をはるかに超える生物種の大量絶滅時代に突入しているといわれている。

恐竜の絶滅の原因は気候変動説、植物進化説、プランクトン繁栄説、マントル変動説などさまざまであるが、最近では、隕石衝突説が注目を集めている。ノーベル賞を受賞したアメリカの物理学者、ルイス・アルバレス博士の説によると、6500万年前、北アメリカのユカタン半島に直径20キロメートル以上と推定される巨大隕石が秒速数十キロメートルの超高速で衝突し、そのエネルギーは地球上の全核兵器の一万倍以上の威力であり、想像を絶するような大地震、爆風、大火災、大津波が

生じたと推測されている。しかし、最近の研究では恐竜達が隕石衝突により瞬時に絶滅したのではなく、その後に生じた酸性雨、オゾン層の破壊、二酸化炭素増加による温暖化、熱帯雨林の破壊などにより、数十万年にわたる全地球的な環境破壊により絶滅したと考える学者が多い。

中世代の環境に最も順応していた恐竜はいわば外的な要因による環境破壊により絶滅したが、現在の地球環境に最も適応しているのは、他ならぬわれわれ人類である。隕石衝突後に地球に起こったことは、形を変えて現在も起こっている。大気汚染による酸性雨、フロンガスによるオゾン層の破壊、熱帯雨林の破壊による二酸化炭素増加、それによる温暖化など恐竜時代に起こった環境異変は、現在ではすべてわれわれ自らが引き起こしていることでもある。また、これらの環境破壊は恐竜絶滅時と違いわずか100年以内に行われたことであり、すでに人類以外の生物種の急速な絶滅が起こりつつある。石 弘之氏は環境問題の解決策を一言で集約すると「人類の活動が地球のもつ環境容量を超えてしまったところから環境の破綻がはじまったのであり、その活動を容量以内に押さえこむことしかない。」と述べている。また、フランスの古生物学者キュビエ（1769～1832）は「人間はこの地球上にほんの一時、生きることを許されただけの存在である」と述べている。現在の人類一人一人が、心しておかなければならない言葉である。

#### 参考文献：

- 松井孝典 著、「巨大隕石の衝突」PHP新書
- 平野弘道 著、「恐竜はなぜ滅んだか」講談社現代新書
- 石 弘之 著、「地球環境報告I,II」岩波新書  
(内科学第二講座助教授)

#### 【お詫び】

#### 広報誌「かぐらおか」の発行の遅れについて

広報誌「かぐらおか」は、例年、年4回（6月、9月、12月、3月）の発行を継続しておりましたが、今回、このような時期に発行せざるを得なかったことについては、原稿執筆者は、もちろんのこと関係の皆様にも広報誌編集小委員会委員長として衷心よりお詫び申し上げます。

発行が遅れました理由については、諸般の事情によるものと申し上げることしかございませんが、この点をご推察いただき、今後は、このようなことのないよう努める所存でありますので、何分のご理解とご容赦をいただきたくお願い申し上げます。

広報誌編集小委員会委員長